



各 位

会 社 名 ネツレン

高周波熱錬株式会社

代表者名 代表取締役社長執行役員 大宮 克己

(コード番号 5976 東証プライム市場)

問合せ先 管理本部経理部長 篠 原 秀 明

(TEL . 03 - 3443 - 5441)

2026年3月期 第2四半期(中間期)連結業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

当社は、2025 年 5 月 12 日に公表いたしました 2026 年 3 月期第 2 四半期(中間期)連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じましたので、お知らせいたします。

記

1.2026年3月期 第2四半期(中間期)連結業績予想と実績値との差異 (2025年4月1日~2025年9月30日)

(単位:百万円)

					(+12.17)
	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	27,000	300	500	300	8 円 75 銭
実 績 値(B)	26,374	512	880	462	13 円 61 銭
増 減 額 (B - A)	625	212	380	162	
増 減 率(%)	2.3	70.7	76.1	54.2	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2025年3月期第2四半期)	29,002	854	1,154	615	17 円 18 銭

2 . 差異の理由

売上高は、製品事業部関連事業の土木・建築関連製品において、建設業界の低迷や人手不足、建設資材高騰による工事遅延、着工遅れが想定以上に長引いたこと、自動車関連製品の高強度ばね鋼線において、国内の一部顧客向けに継続していた生産応援が減少したことなどにより、当初予想を下回りました。

一方、利益面では、I H事業部関連事業の熱処理受託加工関連において、米国の関税引き上げ前の駆け込みを狙った増産が一部顧客で見られたことや自動車部品関係における海外顧客の在庫調整により、受託加工量が増加したことなどで当初予想を上回りました。また、研究開発部門において、上期に想定したコストの発生が下期にずれ込んだことなども利益を押し上げる要因となりました。

以上の結果、熱処理受託加工関連における増産効果及びコストの下期への後ろ倒しなどによる営業利益の増益が寄与し、経常利益及び親会社株主に帰属する中間純利益のいずれも、当初予想を上回る実績となりました。

なお、通期連結業績予想については、建設業界の工事遅延、着工遅れの影響や米国における関税政策の不確 実性などを考慮し、現時点においては、当初予想を変更しておりません。

以上

業績予想等の適切な利用に関する説明

当資料に記載の将来に関する予測数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により開示した予測数値と異なる場合があります。